

平成30年度 第6学年 授業改善プラン

教科	観 点	課 題	指導の視点	具体的な手立て・改善策	
国語	国語への関心・意欲・態度	・要点をおさえて聞くことが苦手な児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くテストやメモをとる活動などを計画的に実施し、要点をおさえて聞く力を定着させられるよう指導する。 ・主語、述語、修飾語の意味、使い方、文章の構成の仕方を繰り返し指導する。 ・問題文だけでなく、説明文、物語文など教科書の叙述を根拠にして読み取れるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く活動やメモをとる活動を計画的に実施する。大事な点やキーワードをおさえることで、要点をまとめる練習を繰り返していく。 ・文章を要約する活動を増やし、内容の理解が深まるようにする。また、接続語や指示語の意味や使い方を押さえることで、筆者の考えや登場人物の心情を正確に読解できるよう指導する。 ・日記を家庭学習に取り入れ、授業感想を書く時間を設けたりすることで、文章力向上を目指し、担任が丁寧に添削を行う。 	
	話す・聞く能力	・主語と述語の関係を押さえて、文章を書くことが苦手な児童が三分の一程度いる。			
	書く能力	・問題の内容を正確に読み取り、表現する力に課題がある。			
	読む能力				
	言語についての知識・理解・技能				
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて		・漢字の意味を考えながら、日常的に使えるようにする。	・日頃から国語辞典などを活用したり、読書量を増やしたりすることで、語彙力を高める。また、学習した漢字を日常的に使用、定着するように意識させる。	
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取ったことを比較したり考察したりすることが苦手な児童がいる。 ・出来事と時代を関連付けて理解することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りを増やす。 ・出来事と時代が混ざって理解の妨げにならないよう、時間をとって整理しながら指導を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りをする学習を多く取り入れ、その資料をもとに自分たちで学習問題を設定し、必要なことを調べてまとめ、発表する機会を増やしていく。 ・人物と出来事の学習をした後、振り返る時間を確保し、年代を整理する。 	
	社会的な思考・判断・表現				
	観察・資料活用の技能・表現				
	社会的事象についての知識・理解				
					児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて
算数	算数への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項をもとに応用したり、共通するきまりを見つけてまとめたりするなどの思考力を高める必要がある。 ・単位量当たりの大きさ、百分率とグラフなどの知識・理解の面で課題がある児童が多い。 ・問題の意図にそぐわない立式や解答をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かしながら考えるように、前時までの確認を行うとともに、プリント等で復習をする。 ・基礎的な事項や計算力が身につくよう、時間をとって指導する。 ・問題文の意図をよく把握させたり、見当をつけてから問題を解く習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りをする学習を多く取り入れ、その資料をもとに自分たちで学習問題を設定し、必要なことを調べてまとめ、発表する機会を増やしていく。 ・人物と出来事の学習をした後、振り返る時間を確保し、年代を整理する。 	
	数学的な考え方				
	数量や図形についての技能				
	数量や図形についての知識・理解				
					全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて
理科	自然事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用しながら予想・仮説を立てることが難しい児童が見られる。 ・問題解決的な学習の流れは定着しているが、観察・実験の際にどのような条件制御を対照実験を行うのか考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の復習や確認の時間を設け、定着を図れるようにする。根拠をもって説明できるようにする。 ・実験方法を考えさせる流れを授業の中に入れて指導を行う。また、実験の目的が明確になるように必然性のある課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や生活体験を想起できるような補助発問をして、自分で表現・説明できるようにする。 ・じっくりと自分の考えをノートに書く時間を確保する。 ・また、その実験によってどのようなことがわかるのかをノートにまとめることができるように板書をする。 	
	科学的な思考・表現				
	観察・実験の技能・表現				
	自然事象についての知識・理解				
					児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて
音楽	音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、歌詞や曲想から様子や情景を思い浮かべることができるが、自ら音楽表現を工夫するところまでに至っていない。 ・器楽では、楽器の基本的な奏法は理解しているもの、音色や楽器の特徴に合った演奏の仕方を工夫したりすることを苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲のよさを感じ取り、表現をする楽しさを味わえるようにする。 ・楽器の特徴をつかみ、全体の響きに合うような音色での演奏をできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDや友達の演奏を聴くことによって、楽曲のよさを実感できるようにする。また、表現をするために必要な技能を定着させるために、発声練習などを行い、自信をもって歌うことができるようにする。 ・鑑賞や実際の演奏を通して全体の響きのよさやパートの役割に気付かせ、楽器の特徴を生かした演奏ができるようにする。 	
	音楽表現の創意工夫				
	音楽表現の技能				
	鑑賞の能力				
図画工作	造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度はとてもよい。話もよく聞いているが、よく観察していないと、活動をせずに自分勝手なことをやっている様子も見られる。指示されたことはほぼ完遂できる実態があるので、自分で表現したいことや、表現する方法を模索する活動に取り組ませたい。 ・作業や実習には意欲的に取り組むが、学んだことを生かしてよりよいものにしていくために、自分の生活を振り返り、考えたり話し合ったりする活動には積極的でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分がやりたい表現に近づくためのアドバイスの提供。 ・準備、片づけに関するルールの確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援を通して児童がやりたい表現に近づくための道具や材料の使い方を具体的に伝える。 ・準備、片づけの場面での姿を振り返らせて、今一度、真面目に取り組む雰囲気をつくる。 ・作るものと生活のつながりに気づかせ、よりやる気の出る授業を展開する。 	
	発想や構想の能力				
	創造的な技能				
	鑑賞の能力				
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・作業や実習には意欲的に取り組むが、学んだことを生かしてよりよいものにしていくために、自分の生活を振り返り、考えたり話し合ったりする活動には積極的でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り、学習したことを活用したり、工夫したりすることで、よりよく生活しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科ノートを活用し、学習の感想や振り返りの欄に必ず記入させ、実生活に照らし合わせて考える機会をもつ。 ・ノートや実践カードを友達と交流し合うことにより、よりよい生活に気付かせ、実践の意欲を湧かせる。 ・家庭でも実践できるよう、実践の仕方や事例をわかりやすく提示する。 	
	生活を創意工夫する能力				
	生活の技能				
	家庭生活についての知識・理解				
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・チームプレーとなる単元では、感情的になってしまう児童が見られる。 ・自己の課題に応じた工夫をする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を受け入れる姿勢を身に付け、協調性をもって運動に取り組む姿勢を育む。 ・課題をつかんだり工夫したりするための、振り返りの視点を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動のねらいを明確に伝え、勝ち負けだけにとらわれない態度を養う。グルーピングやルール作りについても丁寧に、称賛や励ましの声掛けの視点を示す。 ・めあてを明確にしたり、映像資料やICT機器を活用したりして自己の課題やこつをつかませる。また、振り返りの時間を確保し、自己やチームの課題を考えて解決できるようにする。 	
	運動や健康・安全についての思考・判断				
	運動の技能				
	健康・安全についての知識・理解				